

「思い煩いからの解放」(要旨)

聖書箇所：マタイ 6:19~34

【1】心配のない生活

私たちは思い煩うことのない生活を送ることができたらと願います。

山上の説教を聞いていた群衆は、倉に蓄えられた食物、雨や嵐にびくともしない頑丈な家、豊かに蓄えられた財産、そして健康、それらを思い浮かべたことでしょう。私たちも、研鑽を積み、人脈を広げ、貯蓄をし、適度な運動をすることが将来の安心のために必要だと教えられてきました。

それらは、地上の宝だと言い換えることができるでしょう(6:19)。「(地上の宝とは)私たちが安心して将来をのぞみ見ることができるよう、確実性を与えてくれる」(シラッター)ものです。

主イエスは、私たちが真っ先に安心の材料として思い浮かべる地上の宝に過度な信頼を寄せるな、と言われました。どんなに素晴らしい宝であれ、地上にある限り、傷物になり、盗まれてしまうからです(6:19~20)。またそれらに執着すると、心の目が曇り、神に仕えることの妨げになると教えられました(21~24)。どんなに素晴らしい宝を持っていても、それが私たちを思い煩いから自由にすることはないのです。

▶冷凍庫の食材

【2】心配するな

「心配する」(6:28)と訳された「ムリナホ」(ギリヤ語)という言葉は、「思い煩う」と訳することができる言葉です。このことばは大抵、否定的な意味で使われます。主イエスは繰り返し、明日のための心配をするなと教え、使徒パウロは「何も思い煩わないで…」(ピ° 4:6)と勧めました。

主イエスが明日のことまで心配するな、と言われたのは、明日の準備をするな、将来のために貯蓄をするな、という意味ではありません。私たちが自分ではどうにもできない明日について、取り越し苦労をするな、と言われたのです。私たちは日々さまざまな

ことで思い煩います。あれやこれやと心配事を見つけては眠れぬ夜を過ごすこともあるでしょう。イエスは、私たちが明日のために心配することに時間やエネルギーを費やすことは、「自分のいのちを延ばす」(27)のために努力することと同じだと言われたのです。

私たちがすべきことは、明日のための心配ではなく、今日、自分がすべきことに誠実に向き合うことなのです。

「明日のことを心配するのはやめなさい。神さまは明日のことも心にかけてくださるのだから、一日一日を力一杯生き抜きなさい。」(リビングバイブル訳)

【3】私たちが第一にすべきこと

私たちが思い煩いに支配されるのは、地上の宝に依存しているからに他なりません。思い煩いは、人間にいのちを与え、空の鳥や野の花を養い育てておられる天の父に対する信頼の欠如から生まれるからです。

主イエスは、繰り返し心配するな、と言われました。そのまとめとして「まず神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはすべて、それに加えて与えられます。」(33)と説かれました。

私たちがすべきことは「神の国と神の義」を継続的に求めることなのです(「求めなさい」命令法現在)。それは神の主権に従うこと、神様の御心を求めて生きることです。主イエスは、神を第一にするならば、「これらのもの(物質的な必要)」も備えられるのだと言われました。何を食べよう、飲もう、そして着ようかと気を散らすのではなく、第一にすべきことに目を向け生きることができますように。

▷私たちが私たちが愛してくださる天の父なる神に信頼する時に、思い煩いから解放されるのです。

